

宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 授業作りについて

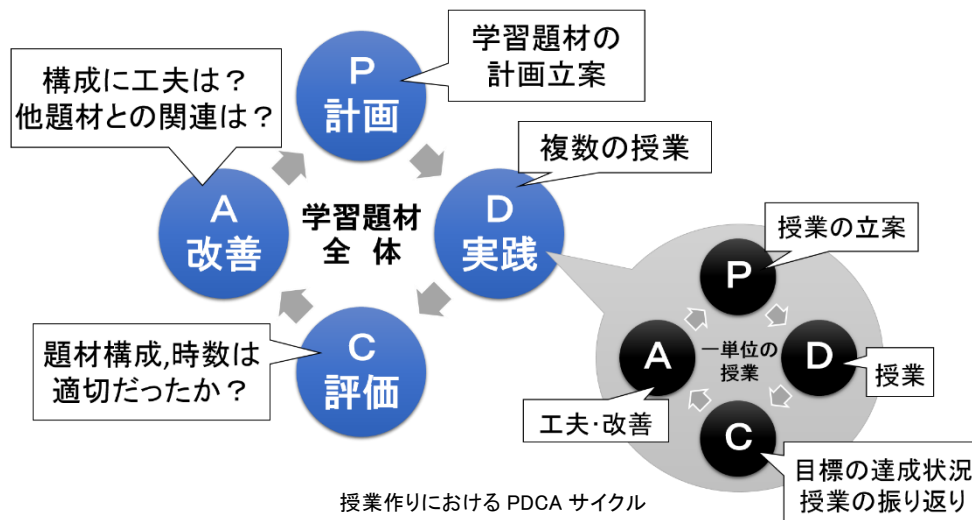
2018. 3

◆本校の授業作り◆

本校の授業作りでは、計画→授業実践→授業評価→改善といった手順，すなわち，PDCA サイクルを一つ一つ丁寧に追う。

特に，一単位時間の授業における目標設定やそれを達成するための具体的な指導方法(指導のスキルやテクニック，障害に応じた配慮など)の在り方だけではなく，複数の授業によって構成される学習題材の在り方をも含めた大きな枠組みで取り組むことで，最終的には教育課程の在り方にも迫ることを目指す。これは，カリキュラム・マネジメントの視点からも，外すことのできない点である。

また，このサイクルの運用にあたっては，目的に応じた各種資料を作成し，授業作りの環境を整える必要がある。観点を明確にして授業作りを進めることは，授業を分析的に評価し，確実に改善するために有効であり，結果的に授業作りのサイクルを力強く推し進める原動力となる。



資料	目的・用途	資料 No.
題材計画	学習題材全体に対する，「つながる力」を育む視点の位置付け	資料 2
学習指導略案	一単位時間の授業における「つながる力」を育む視点の明確化	資料 3
「つながる力」を育む 授業評価表	「つながる力」を育む観点での授業評価及び改善の方向付け	資料 4
「つながる力」に関する 児童生徒評価表Ⅰ	「つながる力」に関する実態把握及び指導方針・手立ての設定	資料 5
「つながる力」に関する 児童生徒評価表Ⅱ	「つながる力」を発揮する姿の評価及び考察	資料 5

観点を明確にした各種資料（平成 27・28・29 年度研究より）

◆授業作りの基本方針◆

本校では、授業作りの基本方針を以下のとおり設定し、授業作りを進める。

【大切にしたい授業作りの視点】

- ①児童生徒の内面に着目すること
- ②「分かる・できる・考える」授業を展開すること
- ③自分自身の学びや成長を実感できること

(平成 23・24・25・26 年度研究より)

①児童生徒の内面に着目すること

- ・行動を支えている思いや願い、意欲といった内面に着目し、それらをより豊かに育てていくことで、目指すべき姿を引き出す。
- ・学びの結果として表れる行動そのものだけでなく、学びの過程や心情の変化といった内面の変容やその変容が見られた理由や背景をも含めて、児童生徒一人一人の姿を様々な面から丁寧に捉える。
- ・内面を的確に捉えることは、児童生徒にとって魅力的で「やってみたくなる」授業作りの第一歩である。

②「分かる・できる・考える」授業を展開すること

- ・「分かった・できた」経験が十分に積み上げられていくと、「分からない・できない」場面に遭遇した際に、「どうすればよいだろう、こうすればできるかもしれない、よしやってみよう！」と考えて行動することへとつながっていく。
- ・知的障害を有する児童生徒にとっては難しいと思われる、「考える・思考する・課題を解決する」ことも、「分かる・できる」を十分に保障することで効果的に作用する。
- ・「分かる・できる・考える」経験が有機的に結び付くことで、児童生徒の内面をより豊かに育てることができる。

③自分自身の学びや成長を実感できること

- ・頑張っている自分、成長している自分を実感できることは、自分を適切に評価することであり、自信や自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる。
- ・自分自身の頑張ったという実感とそれに対する他者からの承認・称賛が合致することで、自信が意欲となり、目指すべき姿へとつながる。